

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691800078		
法人名	株式会社ミストラルサービス		
事業所名	ミストラル とよさと(さくら)		
所在地	京都府綾部市栗町土居ノ内31		
自己評価作成日	平成31年3月1日	評価結果市町村受理日	令和元年7月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2691800078-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2691800078-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成31年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ひとりひとりを大切に“わ”のある暮らしを」を理念に入居者様、ご家族様、地域の方々、そしてスタッフが大きな“わ”になり笑顔あふれる施設を開設当初から目指しています。今年で7年目を迎え、入居者様の看取りケアにも検討を重ね取り組んでいます。最後までその人らしく穏やかに過ごしていただけるように家族・医療・施設が同じ思いでケアしています。また、入居者様の今できる事を軸に置き、筋力の低下や認知症の進行など現状維持できるよう毎日の生活の中に脳トレや運動など積極的に取り入れ、スタッフひとりひとりが責任感をもち日々笑顔で関わっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の方に馴染みの小学校跡地に開設された当該ホームは地域と繋がりのあるホーム作りを目指しており、様々な地域行事の案内をもらい、文化祭に利用者の作品を出品したり、祭りや地域のサロン、落語会等多くの行事に利用者と共に参加し、災害時には地域の方の避難所にもなっており地域との良好な関係作りにも努めています。職員は利用者一人ひとりに向き合い思いを聴き、本人にとってより良い支援を考えながら望む暮らしに近づくよう取り組むと共に毎月行事を企画し楽しめる機会作りや梅や桜、紫陽花など多くの花見等の他、気候の良い時期には散歩や花や野菜の世話等外気に触れる機会も多く作っています。また法人代表者や兼務している管理者はホームを訪れ職員とコミュニケーションを図るよう努め出された多くの意見や提案をより良いホーム作りに活かしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	弊社の経営理念をもとに、介護事業部の今年度の目標“人にやさしく”をスタッフ一人一人が意識しています。朝の申し送りでは理念など出勤スタッフで言う事によって意識を高めている	法人の経営理念を基に作られた介護事業部の年度目標に込められた意義についてフロア会議で伝え、フロア毎の職員で話し合い年度目標を決めています。申し送り時に唱和し、フロア会議では笑顔や利用者の気持ちに寄り添うこと、会話することの大切さなど日々のケアを振り返り確認しながら理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎年の様に自治会の地域行事には参加、7年目を迎え地域で開催される行事にはお声をかけて頂き感謝している。事業所が地域の一人として日常的に交流は進んでいる	地域の文化祭に利用者の作品を出品したり、祭りや地域のサロン、落語会等多くの行事に案内があり利用者と共に参加したり、祭りの御輿や獅子舞はホーム内まで入り舞等を披露してもらっています。また中学生の体験学習の受け入れや行事に合わせて和太鼓や民謡等のボランティアの来訪がある他、併設施設に演奏等のボランティア来訪時にも一緒に参加し交流を楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護サービスや認知症の関わり、地域での講座など講師やスタッフとして積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設時から2か月に1度開催、地域の方や民生委員、行政関係、地域包括、ご家族様代表、計6名にとよさと管理者やホームユニットリーダーなどで、時期に応じたテーマや事例検討など施設内での取り組みや現状など検討し委員様からの貴重なご意見を頂きサービスの質の向上、ひらかれた施設づくりに生かしている。	会議は家族や公民館館長、民生委員、学識経験者などの複数の地域関係者、市職員等の参加を得て開催しています。会議ではフロアごとの利用者状況や2ヶ月間の行事などを報告し意見交換しています。利用者へのケアに関するアドバイスを受け職員間で考える機会を持ちケアの改善に繋がったり、地域の高齢者問題など安心できる地域作りについても共に話し合う有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員としての参加はもちろん、現状や取り組みなど積極的に伝えいつでも尋ねられる良い協力関係が構築されている。	運営推進会議に必ず市職員の出席があり、ホームの取り組み状況について把握してもらっており、職員は市主催の連携会議に出席し研修予定や取り組みについて話し合い協力関係を築いています。分からない事は随時相談しアドバイスを得たり、連絡事項等がメールで届いています。また介護相談員を受け入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束しないケア」については、年間のスケジュールに基づき書面研修を行い、全スタッフ理解を深めている。利用者様の安全上やむを得ずエレベーターや階段の開放化は出来ていない、ただ出入り自由に行えるよう見守り閉鎖感のない環境づくりに取り組んでいる。	3ヶ月に1度委員会を開き身体拘束に関する事例などを盛り込んだ資料を配布し、フロア会議で職員に伝達し職員はレポートを提出しています。また会議では言葉による行動の制止などについて職員からも声が上がったり、介護相談員からアドバイスを受けることもあり、その都度振り返りや確認を行っています。エレベーターはテンキー対応となっていますが外出希望の方にはできる限り付き添っています。	

ミストラル とよさと(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修スケジュールに基づき書面研修を行い全スタッフ理解を深めている。日々の関わりの中でも言葉使いや姿勢、態度に注意しケアに取り組んでいる。スタッフのストレスチェックも日々の会話で内面のフォローにも努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域や行政などの学ぶ機会を持ち、今後必要な方には対応できるように支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には書面を通じ契約・重要事項説明書・各同意書を十分に説明し同意を得ている。ご家族様のご不安な点についてもご理解、納得頂けるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年利用者様ご家族様宛のアンケートを実施し結果、または来所時など直接意見など頂いた場合は申し送りやカンファレンス、スタッフ会議にて検討しケアや運営などに反映している	利用者の希望は関わりの中で聞き外出やおやつレクリエーションなどに反映したり、月に1度介護相談員を受け入れ利用者の声を聴いてもらっています。家族の意見は面会時に本人の様子を伝える中で聴いたり、運営推進会議や家族交流会、年に1度のアンケート調査の他、広報紙でも意見や要望を募っています。今回のアンケート調査で掃除に関する意見があり、今後対応を検討し改善する予定としています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日のように各ユニットに行きスタッフや利用者様と会話のできる様に努めている。代表も現場へ足を運び、まんべんなくスタッフと交流を図れる環境づくりをし、意見を言いやすい現場になっている	職員の意見はフロア会議や日々の業務の中で聞いたり、法人代表者や兼務している管理者は積極的にホームを訪れ個々の職員とコミュニケーションを図り、意見を言いやすい関係作りに努めています。職員は活発に意見や提案を出しており、理学療法士に来てもらい職員が指導を受け、日々のケアに取り入れたり、物品の購入や買い替えなど多くの意見を反映しています。また年2回実施している個別面談も意見を出せる機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回直接代表者との面接の機会がありスタッフからの意見を聞き、感謝の気持ちを伝えている。また、スタッフの自己評価などを参考にし向上心を持って働くことのできる環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修はもちろんのこと外部への研修も希望を確認し参加できる環境づくりをしている。伝達講習なども行いスタッフ全体で成長できるように取り組んでいる。		

ミストラル とよさと(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者等は地域の事業所連携会議や地域包括ケア会議に出席し、同業者と一緒に認知症の講演会や事例検討会などに積極的に参加している。いつでも連絡や相談のできる地域連携も意識し地域全体でサービスの質の向上を目指す取り組みをしている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時に困っておられることや不安なことなど伺いアセスメントしている不安が取り除けるよう、施設にもお越し頂き生活の場を直接見学して頂けることで安心を提供できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の申し込み時から、ご家族様がその時点で困っておられることや不安なことなど伺いアセスメントしている不安が取り除けるよう、安心して利用できるまで何度も足を運んでいただいたりお話をする機会を設けて信頼関係構築していく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族様との面談時、必要な事柄を確認している。スタッフ内でのカンファレンスなどを利用しその方にあった支援を提供していけるよう検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いつも同じ目線で関わり、待つ時間や聴く時間、寄り添う中で一緒にできる喜びや感謝することを大切に良い関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつもと変わらない生活を基本に本人様が穏やかに過ごせるようスタッフだけでなくご家族様も一緒に地域行事や施設内行事など過ごす時間を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの関係の中で教会に以前と変わりなく参加したり、自治会の方との交流を続けたりと本人様が大切にされてきた人や場所、関係が途切れない様努めている	幼馴染みの利用者同士が話せる機会を作ったり、近所だった方や友人、教え子等の来訪時は居室でゆっくりできるよう配慮をする他、併設施設を利用している同級生等も会いに来ています。また毎月友人と教会に行ったり、家族と共に自宅や墓参り等に行く方もおり関わりのある方の協力も得ながらを支援しています。またよく行っていたスーパーへの買い物や年賀状を出す方は一緒に葉書を買に行く等の関係継続の支援をしています。	

ミストラル とよさと(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の時間も大切にしながら、他の入居者様との時間の提供、一緒に絵画など作成したり日々の役割など支えあえるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も自宅でできた野菜などの提供もあったり、介護のことなどの質問や相談などにも必要に応じて対応している。これまでの関係性を大切にしながら関りを継続している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしくを大切に本人様の意向や思いは生活の中から会話、表情、言葉などから、また家族様との会話からも把握している、毎月担当者によるカンファレンスを行い検討しケアに活かしている	入居に向けては自宅を訪問したり、来訪時に本人や家族の思い、身体状況などをアセスメントの項目に沿って聞きとり職員間で共有しています。入居後は本人からより多くの情報を収集するよう努め思いの把握に繋げたり、困難な場合は本人の行動や表情などから推測し、家族にも聞きながら得られた情報を支援経過やアセスメントに追記すると共に職員間で思いが把握できるよう話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時だけでなく入居されてからも生活の中、家族や馴染み方との会話などから把握に努めている。本人様のこれまでの暮らしを大切にスタッフ全体で関わっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	開設時から続けている 24時間シートやフローシートなど、心身の様子を常に把握し記入している。変化のあった時などは色ペンなどで記入方法を変え全スタッフに伝わるように工夫もしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにて現状と課題、目標などスタッフケアマネが検討し本人様や家族様に提案した話し合う機会を設けて介護計画書やモニタリングに活かしている。一番身近に関わっているスタッフからの目標をケア内容につなげておりチームで作る介護計画書になっている	アセスメントの基、日々の中で把握した本人の思いや来訪時に確認した家族の意向をにそって介護計画を作成しています。カンファレンスでは全職員が意見を出し話し合った内容を下に担当職員が毎月介護計画を評価し、入居当初は1ヶ月、その後は3~6ヶ月毎に担当者が他の職員の意見も加味して抽出した課題をケアマネジャーに伝え介護計画を見直しています。また必要に応じて往診時に確認した医師の意見を反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の支援経過やカンファレンスは充実しておりスタッフ間での情報共有も申し送りなどを活用し反映できてる		

ミストラル とよさと(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状態や様子に合わせて柔軟な対応に努めている。ご家族との時間や馴染みの関係者による外出の支援など多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年の様に地域行事には地域住民のひとりとして参加している。7年目を迎える施設も地域の一員として新たな社会資源の把握に努め豊かな暮らしを楽しんで頂けるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の意向に応じて往診や受診、または家族様と一緒に付き添ったり、車いす等の送迎など柔軟に対応している。受診時には本人様の心身の状態や様子を報告し適切な医療が受けれるよう支援している。	入居時にこれまでのかかりつけ医を継続できることを伝え家族の意向を優先し決めてもらっています。継続する方は書面で情報提供し家族と受診したり、往診を受け、家族が行けない場合や車いす対応、医師に伝える事がある時などは職員も付き添っています。また協力医は月に1度往診があり、ケアマネジャーでもある看護師が日々の健康管理や職員の相談に応じています。また希望や必要に応じて訪問歯科を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化や気づきなどは管理者、看護師にも報告し常に協働している。医療的な面での相談や報告、状態の把握など行い適切な受診や看護が受けれるように取り組んでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入居時のサマリーなどで情報の提供を行っている。入院時だけでなく受診時から報告や相談できるよい関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については早い段階からお話をさせて頂くようにしている。徐々に変化する状態に合わせて何度も話し合いを持ち本人様ご家族様、病院、施設が同じ方向にケアできるようにチームで取り組んでいる	入居時に看取りに関するホームの対応について説明し、重度化した場合は医師や家族、管理者などで話し合い方針を決めています。看取りを支援する際は状況が変わる毎に話し合いを重ね、家族の思いに傾聴しながら医師や看護師と連携を回りアドバイスを受けながら支援に取り組んでいます。職員は看取りに関する外部研修の受講やフロア会議でも勉強会を行うなど学ぶ機会を持ち、意向に添えるよう支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応については書面研修や勉強会など実施し常に対応できるように努めている、連絡網の把握や対応力については現場で指導を行い働きながら実践力を身に付けている		

ミストラル とよさと(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(通報、避難)を行っている、昼間や夜勤中など実際を想定しながら実施している。地域の方々にもアプローチし協力体制を構築している	年に2回避難訓練を行い1度は消防署の立ち会いを受け施設全体で避難誘導や水消火器の使用方法などを行い、独自では夜間を想定し近隣職員への連絡などの訓練を行っています。運営推進会議で訓練の案内や協力を依頼し、自治会長の参加を得ています。また施設として福祉避難所になっており、災害時地域の方を受け入れた事もあり、3日分程度の備蓄や備品を置いています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを大切に、その方に応じた対応をしている。スタッフが感謝の気持ちを持ち笑顔になれる声かけなど心掛けている、時間や場所などにも配慮しその方の尊厳を大切に関わっている	接遇マナーに関する書面研修と共に部署ごとに接遇について掘り下げて話し合う機会を設けたり、月間目標にも掲げ職員への浸透に努めています。職員へは人生の先輩として敬意を払い、家族の立場や第三者が見ても不快感を与えない言葉遣いや対応をするよう伝えています。日頃は敬語を基本に個々の利用者や場面に応じた対応に努め、不適切な対応は互いに注意をしています。また希望に添った同性介助にも努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアのなかで本人様のお宅に行かせて頂いている気持ちを忘れず大切にできる限り自由に過ごして頂けるようにしている、起床時間や就寝時間などその日の気分や体調等、本人様の意向、自己決定できるよう、スタッフも待つ時間を大切にケアしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフにとっては“働く場”入居者様には“生活の場”このことを理解しケアを行っている。おひとりおひとりの思いを尊重し、その方の表情からもくみとり希望に添っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日の流れを大切に朝や夕などの好きな服への着替えや身だしなみ、スキンケアなどその人らしくおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の中で入居者様にはできる事柄に応じて役割を持って頂いている。お互いに感謝の気持ちを伝えている。終始和やかな雰囲気大切にしている。月に1回は手作りランチの日や月数回のおやつづくりなどにも取り組んでいる	施設の厨房で作られた食事が届いており利用者と一緒に盛り付けなどを行い、月に1度はカレーを作り、利用者に野菜切りなどのできることに携わってもらっています。時には出前を取ったり、少人数や個別で回転寿司やレストランへ外食に行ったり、クッキーやぼた餅などのおやつ作りを利用者と共に楽しみ職員も一緒に食べています。収穫した胡瓜などで漬物を付けたリトマトが食卓上がっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	フローシートを活用し管理している。水分制限や食事制限など個々の対応もその都度行っている		



ミストラル とよさと(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	緑茶うがいは恒例となり定着している。協力医である歯科医院と関係もよく口腔ケアや嚥下など口腔に関することのアドバイスも頂きながら本人様の力に応じたケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを利用し入所者様の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を実施、失敗した時など本人様のお気持ちを大切に自立に向けた支援を行っている	トイレに座り排泄できることを大切にしており、個々の排泄記録からパターンを把握し、車いすの方も含め全員がトイレで排泄できるよう支援をしています。フロア会議では本人に合った支援や排泄用品について検討し、変更内容は申し送りでも共有しています。パターンを把握し声掛けなどの支援を継続することで失敗が減ったり、紙パンツは利用者が自身で脱着しやすい物を選択するなど自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による不穏等の気持ちを理解し、内服だけに頼らず運動や野菜たっぷりのメニューなどにより便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入所者様の入浴に対してのお気持ちや身体状況などに応じて入浴時間や曜日など個々に添ったケアに努めている。ホームの生活の中でも季節感を感じて頂ける様ゆず湯などの提供も行っている	入浴の際は寒暖差が無いよう配慮し週に3回を目安に午後から入ってもらい、全員が湯船に浸かり温まれるよう支援しています。季節の柚子湯や希望がある場合は回数を増やしたり、好みのシャンプーや入浴剤を使用する方もおり、個々に合わせて入れるよう支援をしています。入浴を断る方には声掛けの工夫や日時の変更など無理の無いよう配慮しています。また併設施設の機械浴の利用も可能です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様のタイミングに応じて休息や就寝して頂いている、日中の過ごし方にも運動や脳トレなど取り入れ夜間ゆっくり休んで頂ける様工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については個人ファイルで管理し各スタッフが把握できるようにしている、調整などは医師や看護師の指示のもと実施、ホール内での声かけを重視しダブルチェックを行いながら飲み忘れや誤薬など予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者様おひとりおひとり、生活の中での役割があり、やりがいや喜びなど感じながら生活できるよう努めている、体調に合わせながら外出やレクレーションなど個々や全体で実施し気分転換等の支援も行っている		



ミストラル とよさと(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様個々の希望やお気持ちなどをくみ取りいつでも外出できるように努めている、四季折々の季節を感じて頂ける様ドライブや地域のお祭り、文化祭などにも積極的に参加している。今までのなじみの関係も大切に週末には教会へ出かけたり、自治会の講演会やサロンも継続できるよう支援している	日々ホーム周辺を散歩したり、育てている花や野菜の水やりなどの世話や気分転換を兼ねて屋上でお茶を飲むこともあり、気候と天気の良い日は外出の機会を多く持てるよう支援をしています。年間を通して梅や桜、紫陽花、バラなどドライブを兼ね多くの季節の花を見に出かけています。また祭りや作品展、地域で開かれるサロンなど多くの行事に案内をもらい利用者と共に出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお預かりしているお金を管理し、買い物や外出など本人様のお金に対してのお気持ちをしっかりと理解しその方に応じて所持して頂いたり使って頂ける様支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きな時に手紙やはがきなど自由に連絡できる環境になっている、遠く離れたご家族様への電話についても自由にかかけたりかかってきたりと支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の生活の中で施設内の掃除を行い清潔を保っている、感染症の対策なども重視している。季節感も大切に壁画や絵画を作成し、入居者様皆様が混乱なく穏やかに気持ちよく生活できるような工夫を心がけている	共用空間はぬり絵などの作品や利用者と一緒に季節に応じた作品を作って飾ったり、生花を掛け季節感のある空間作りを心がけています。随所に置かれたソファや椅子には利用者の手作りのカバーが掛けられ、家庭的で温かな雰囲気作りと共に多くの居場所を作っています。また利用者同士の関係を見ながらテーブルの位置や座席を工夫したり、車いすの動線にも配慮し過ごしやすいよう空間作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の状態や場の雰囲気に応じて座って頂く位置を誘導し混乱の予防に努めている、おひとりの時間や他の入居者様との交流など思い思いに過ごせる居場所づくりをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものや好みのものを活かし本人様が心地よく過ごせるようご家族様とも相談してレイアウトしている、ご主人様の位牌など持ってきておられる方も多くなっている	居室には整理筆筒と洋服筆筒が備えられており、入居時には馴染みのある物や必要な物を自由に持ってきてもらうよう伝え、利用者は小筆筒やテレビ、大切な仏壇などを持参し過ごしやすいよう配慮をしています。また家族や孫などの写真や自身で描いた絵、書道の作品などを飾ったり、安心できるぬいぐるみなども身近に置き、その人らしく寛いで過ごせるよう配慮をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視覚でわかるように貼り紙を行い、排泄、居室への自立を促している。施設内必要所に手すりが配置されており、できる限り安全に自立した生活ができるように工夫している		